

緑化だより

No.176 令和 3年 10月号



ミゾソバ

10月 休園日はありません

- 季節の花(え(エノキ))
- 昆虫の話(10月のガ)
- 小さな世界こけ
(コケが観察できる場所(15)
コツボゴケ、ツルチョウチンゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 緑化センターの本
広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園
〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2
TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843
URL <https://ryokka-c.jp>



季節の花

え(エノキ)

「我が角(かど)の榎(え)の実もり喫(は)む百千鳥(ももちどり)

千鳥は来(く)れど君そ来(き)まさぬ」

作者未詳 万葉集 卷16:3872

これを訳しますと

(わが家の門口に生えている榎の実を、たくさんの鳥が来てついばんでいます。このように鳥はたくさん来るのですが、恋しいあなたは全く来てくださらないことです。)

「もり喫(は)む」は、もいではついばむの意味です。

昔からエノキは大木になると空洞ができやすく、そこに神霊が宿るとも考えられて、霊力が満ちている神樹の木といわれて残されています。そのエノキの霊力で、恋しい人を我がもとへ呼び寄せようとしています。エノキの実をたくさんの鳥が食べに来るのは、エノキには霊力があるからと、たたえて詠われています。

エノキはアサ科(旧ニレ科)エノキ属で落葉高木です。本州～九州の山地に自生しています。幹は直径1.5メートル、高さ20メートル以上の大木です。葉は付け根から3本の葉脈が出て葉縁の上部に鋸歯があります。

花は春に緑色の小花が咲きます。秋には6～8ミリの赤褐色の実が熟し、甘くておいしく鳥の大好物です。

また、葉はオオムラサキ(国蝶)の幼虫の食草です。食糧難の時代には人々は、若葉を米と一緒に炊き込んで糧飯にして食べていました。江戸時代2代目将軍の徳川秀忠は参勤交代制度を完成させるため主要街道の整備を命じて、街道の両側に一里(約4キロ)ごとにエノキ、マツを植えて、一里塚(いちりづか)を築きました。広島藩でも雲石街道(山陽と山陰を結ぶ街道)の一里塚に、エノキ、マツを植えたと言う文献があります。街道を旅する人々にとって、それらの木は目印でもあり、木陰での休憩所でした。一里塚の木は廃藩後には、土地開発などの波に押されて保護していくのが困難となりました。完全な姿ではないですが今も一部が残っており、広島県文化財に指定され大切に保護されています。当時の街道の風景の面影を残しています。(上村)



エノキの葉と実

昆虫の話

10月のガ

ススキの穂があちこちに見られるようになり、松茸などキノコの便りを聞くと、いよいよ秋本番といったところでしょうか。

さて、タテハチョウ科の中に、夏から秋にかけて～3回発生を繰り返す種がいます。これらの種の夏の個体と秋の個体は翅型が異なっており、それぞれ「夏型」、「秋型」と呼ばれています。今回は、その中で県内に広く分布する**ルリタテハ**を紹介します。

写真左は夏型ですが、10月に入って羽化する秋型(写真右)はやや切れ込みの強い翅型をしています。夏型は道路の路肩で吸水したり、樹液に集まったりしますが、秋型は日向で日光浴をしたり、熟した果物に集まったりと行動パターンがやや異なります。また、秋型はそのまま成虫で越冬し、翌春産卵します。

ルリタテハの主な食草はサルトリイバラです。余談ですが、サルトリイバラといえば、葉がかしわ餅に用いられており、筆者は子供の頃、サルトリイバラの葉がカシワだと思い込んでいました。どうも正真正銘のカシワの木が少ない地域ではサルトリイバラの葉が代用されているようです。

最後にルリタテハにまつわるエピソードをひとつ。

ルリタテハの学名は「*Kaniska canace*」で、属名 *Kaniska* はクシャーナ朝の君主カニシカ1世、種名 *canace* はギリシア神話の女性カナケーに由来するといわれています。また、日本本土産の亜種名は 1824 年にシーボルトが「*nojaponicum*」と命名しました。当時、長崎に来たシーボルトが、ルリタテハの瑠璃色の中にある空色の帯状の模様をカタカナの「ノ」の字に見立てたといわれています。筆者としては、サファイヤとかコバルトとか、もう少し品格ある名前なら良かったのと思っていたのですが、今回の執筆にあたり写真撮影してよく見ると、ルリタテハの「ノ」の字は、その勢いやかすれ具合が毛筆で書かれた字として非常に格調高いことに気づきました。(相良)



ルリタテハ (左) 夏型

(右) 秋型

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(15)

園内を歩いていると、湿り気のある林縁や園路の片隅で見られるコケの一つにコツボゴケがあります。

コツボゴケのツボには“庭”という意味があり、庭の片隅や公園から森林まで幅広く生育し、日陰の湿った場所に普通に見られます。

コツボゴケは這う茎(匍匐茎)と立ち上がる茎(直立茎)があり、匍匐茎はランナーのように伸び、仮根を出し群落を作ります。

雌雄異株で、直立茎の頂部には生殖器をつくります。雌株は茎の先端に孢子体をつけ、雄株の先には花の様な苞葉に囲まれて雄器盤をつけます。雄器盤の中にはたくさんの造精器ができます。

葉は長さ 3 mm くらいの楕円形で先がとがり、先の半分に鋸歯があり、乾くと巻き込みます。

同じ仲間、よく似たコケにツルチョウチンゴケがあります。コツボゴケに比べ、山地の林内の日陰でやや湿った場所に見られます。雌雄異株で、コツボゴケと同じく這う茎(匍匐茎)と、立ち上がる茎(直立茎)があります。

葉は長さ 3 mm くらいの舌状で、横じわがあります。葉先はやや凹み、尖りません。

コツボゴケとツルチョウチンゴケの違いは、葉の形で判別できます。

孢子体は、どちらも長さ 3~4 cm くらいの柄の先に、垂れ下がるように、楕円形の孢子のうをつけます。

チョウチンゴケの和名は、提灯が下がっているのに見立ててつけられました。(山根)



コツボゴケの匍匐茎



雄株の直立茎にできた“雄器盤”



コツボゴケの孢子体



ツルチョウチンゴケの匍匐茎



ツルチョウチンゴケの直立茎

研修会のご案内

- 10月 3日(日) 『秋のきのこ教室』 10:00～14:00 第3駐車場 集合
園内で自由に採集したキノコを、学習室に持ち寄り鑑定します 講師：きのこアドバイザー
※自由参加、無料、採集用かご持参 川上 嘉章
- 10月 14日(木) 『10月の自然探勝』 10:00～12:00 学習展示館前 集合
散策路を歩きながら、植物を観察します 講師：森林インストラクター
※自由参加、無料、ルーペ持参 駄賀 恒男
- 10月 14日(木) 『シダの学習会』 13:30～15:00 学習室 集合
シダの基本を学び、散策路を歩きながらシダを観察します 講師：森林インストラクター
※自由参加、無料、ルーペ持参 駄賀 恒男
- 10月 17日(日) 『どんぐり教室』 10:00～12:00 学習室 集合
どんぐりでの遊び方などを学びます 講師：日本シェアリングネイチャー協会
※要予約先着15名、無料 トレーナー 住吉 和子
- 10月 23日(土) 『秋のバードウォッチング』 10:00～12:00 学習展示館前 集合
散策路を歩き、野鳥を観察します 講師：日本鳥類保護連盟会員
※自由参加、無料、双眼鏡持参、雨天中止 吉見 良一
- 10月 24日(日) 『つづらふじでカゴ作り』 10:00～14:00 学習室 集合
※要予約先着15組、材料費1,500円 講師：つづらふじ造形作家
飛河 道雄
- 10月 30日(土) 『第10回ひろしま遊学の森
こども写生大会』 10:00～14:00 緑の相談所 集合
秋の緑化センターを描こう、午後公開審査 講師：元中国新聞社図画教室
※自由参加(審査対象は小学生以下)、無料、画材持参(画用紙以外)
指導審査員 横山 直江
駐車は多目的広場利用

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆お知らせ・ご案内☆♪

- ひろしま遊学の森
スタンプラリー 10月2日(土)～11月14日(日)
- もみじ祭り 10月23日(土)～11月14日(日)
- インスタグラム フォトコンテスト2021(秋)
応募期間 10月1日(金)～11月30日(火)
- 第25回 みどりの集い 11月3日(水・祝)
場所：管理事務所周辺及び苗畑 10:00～15:00

◎ 展示会

場所：レストハウス

(パネル展示)

日本画作品展 開始日未定～10月23日(土)

福田公民館「はずき会」による作品展示

(ガラスケース展示)

つづらふじ手作りかご作品展 開始日未定～10月23日(土)